

15:10~16:10

教育研修講演3：腕神経叢麻痺の診断と治療

座長：田尻 康人（地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立広尾病院 整形外科）

EL3-1 外傷性腕神経叢損傷の診断と治療

Basic knowledge of diagnosis and treatment of brachial plexus injury

服部 泰典, 土井 一輝

JA山口厚生連小郡第一総合病院整形外科

腕神経叢損傷は、オートバイ事故により受傷することが多く、若年者の上肢機能の廃絶をきたす最も重篤な神経損傷である。しかし、腕神経叢損傷は手外科専門医にとっても頻繁に遭遇する疾患ではなく、その診断と治療に関しては専門的な知識と経験が必要である。また、本疾患を経験せずに専門医を取得する整形外科医が少なくないことも事実である。本講演では、腕神経叢損傷の診断と治療に関する基礎的知識を中心に解説する。

EL3-2 新生児腕神経叢麻痺(分娩麻痺)の診断と治療 — 成人外傷性腕神経叢麻痺との比較 —

Diagnosis and treatment of neonatal brachial plexus palsy comparing with traumatic brachial plexus palsy in adults

川端 秀彦

南大阪小児リハビリテーション病院 整形外科

分娩麻痺は成人外傷性腕神経叢麻痺と同様の機序で生じる腕神経叢の牽引損傷であるが、いくつかの点で相違があり、その相違が診断や治療に影響を及ぼす。診断では幼弱性が問題となる。治療では旺盛な自然治癒力があることを考慮した治療が大切である。リハビリテーションをベースに、重症例に対しては神経修復術を行い、遺残麻痺に対しては適切な二次再建手術を行うことが基本戦略である。